

詩編 40 編 5 節のラハブとは何を意味しますか。

ご質問の箇所は以下の通りです。

「いかに幸いなことか、主に信頼をおく人 ラハブを信ずる者にくみせず  
欺きの教えに従わない人は。」

口語訳では、

「主をおのが頼みとする人、高ぶる者にたよらず、偽りの神に迷う者にた  
よらない人はさいわいである。」

とあり、ラハブを「高ぶる者」と訳しています。

原語のヘブライ語本文でも、高ぶる者を意味するラハブ(רָהַב)の複数形

レハービーム (רְהָבִים)で記されています。 聖書ソフトであるバيب  
ルワークス (Bibleworks) は、詩編 87 編 4 節にある同じ言葉(ラハブ)を  
引用してエジプトと説明(比喩)し、詩編 40 編 5 節では傲慢、偶像と説明  
しています。したがって、高ぶるもの、あるいは偶像など(イスラエルに)  
敵対するもの全般を表すようになったのではないのでしょうか。

なお、英語訳の多くは"proud"、すなわち「高ぶるもの」と訳していますが、その他、  
"haughty"「高慢な,横柄な,傲慢な,尊大な」、"vanities("vanity)"  
「うぬぼれ,慢心,虚栄心」や"idolatry"「偶像礼拝、偶像崇拜、心酔」など  
と訳しています。

念のため、ヨシヤ記 2 章 1 節に登場する二人の斥候をかくまったエリコの  
遊女ラハブは発音が異なり、ラーハーブ(רְהָב)と読みますので混同しない  
ようになさってください。